

Evolution, Traits, and the Stages of Human Courtship: Qualifying the Parental Investment Model

Para1

個性と社会心理学との間の和解の必要性 → 最近の議論

- 1987年12月の *The journal of personality and social psychology*
 - 二つの分野を統合する論文が掲載
- その二つの学問は20世紀初頭に誕生し、ダーウィンの進化論に影響を受ける
- Sigmund Freud (個性の研究についての代表的先駆者)
 - 生物の本能や原始的な群について、ダーウィンの考えを基にしたアイデアを提示
- *Social psychology* というタイトルが付く心理学の最初のテキスト
1908年 William McDougall によって出版：より明確なダーウィンのアプローチを展開

Para2

- このような共通した発生 → 個性と社会心理学の再結合の背景となる
- 筆者達の過去の議論
 - ① 生物社会的モデルは、社会認識の近似のプロセスと社会生物学の枠組みについての社会的経験をつなげることができる。
 - ② この枠組みと関連性のある二つの分野が存在している。
 - (a) 個性と社会的行為の間に存在するジェンダーの差異の解釈
 - (b) それらのジェンダーの違い異なる mating 戦略と関わっている

(この論文についての議論)

→ **Mate selection** の社会心理学的プロセスに対する個性に関するジェンダーの違いについて、進化論的概念を用いた研究についての議論

Sexual Selection

ダーウィンの理論：最初の段階から、社会的プロセスとジェンダーの違いの間の個人的関係が議論

→ 性的淘汰を媒介として、その二つが結ばれていると考える

- その最初の議論：『種の起源』
 - オスとメスの違い → 性的淘汰から生じる
 - 他のオスに対して優位性を持つことで、自らの子孫を残すことができる
- ヒトの場合
 - “魅力”の個人的な違い → 社会的な行動の中で表現される
 - = 社会的な優位性の重要性を強調
- 性的淘汰の細分：Intrasexual selection (同性間の競争に由来)

Epigamic selection (異性間の誘惑に由来)

P214

Para1

人間の文化の中で、男性と女性の間で個性が異なるという事実

→ 一部、**Sexual selection** によるもの

(ヒトの祖先において)

男性：社会的優位性やステータスに関連する特質に基づいて選択

女性：子孫に対する再生産価値と潜在的いたわりを求められる

Para2

ダーウィン：性的淘汰は女性よりも男性に関連があると考えている

男性 → 相手を得るために競争

女性 → 選択的行動

* 現代の進化理論もダーウィンの考えに基づく

このような差異 ← 両親の投資 (**Parental investment**) の違いで解釈

両親の投資の定義：子孫の再生産に対するコスト

ほ乳類：女性が多くの投資を行う (胎児の世話、子孫の数量的制限)

→ **mating** 戦略の違いを生み出す

女性：それぞれの子孫の生存能力や再生産の潜在性を最大化

男性：子孫の数を最大化

* 性的パートナーに対する基準

→ 女性は選択的で、男性はその反対

Para3

ヒトの **sexuality** (性的関心) の研究

→ 両親の投資のパターンと一致

男性：**sexuality** を強く持つ

Para4

筆者らの研究 → 優位性や異性の魅力の研究における両親の投資モデルを設定

そのモデル：女性は社会的に優位な男性に魅力を感じるが、男性はそれが少ない

* そのモデルをサポートするもの

→ **Sadalla** の研究 (すべての年齢にわたる現象)

Buss・Barnes の研究 (文化横断的な現象)

P215 **Pair bonding Increase Male Parental Investment**

Para1

両親の投資モデル

より多くの投資 → 選択

少ない投資 → 競争

* 多くのほ乳類を比較すると、人間の男性は子孫に対して多くの投資を行う
ヒトの社会：両親との繋がりが確立されたパターンが存在

(アメリカ人の約 95%が少なくとも一度は結婚する)

Daly・Wilson の研究：ほとんどの社会においていくつかの結婚形態が存在

求愛の内容はかなり多様だが、相手との繋がりは人間社会の普遍的特質

* 人間の男性の高い投資 → 他のほ乳類とは対照的

Para2

ヒトと他のほ乳類における、両親の投資についての異なる考え方

→ Buss・Barnes の研究を考慮する必要性：学生に相手を選ぶときの特徴をラン
クづける調査を通じて、性差を見いだす

女性：男性よりも所得や学歴を重視

男性：女性よりも身体的特徴を重視

このような違い → 進化のモデルと矛盾しない

* 一方で、Buss・Barnes の研究は男女間の共通性を際だたせている

ランキングのトップ 10 の内、七つが同じであった

Para3

Sadalla の研究：男女間の違いを際だたせる

Buss・Barnes の研究：男女間の共通性を際だたせている

→ 両者の違いをどのように解釈するのか

(Symons の提示)

→ 典型的な両親の投資における性差と最小限度の両親の投資における性差を区別
する必要性

Qualifying the Parental Investment Model

典型的な親の投資と最小限度の親の投資の違い

ヒトにおいて：他のほ乳類において見られるような強いジェンダーの違い

他の一夫一婦の種ほどのジェンダーの違いを示さない状況

Sadalla の研究＝見知らぬ人同士の魅力に注目

見知らぬ人同士の性的関係 → 男性の投資は少ない

(同様の結果を他のほ乳類においても確認している)

Buss・Barnes の研究＝長い期間の関係についての考察

→ 多くの共通性を見いだす

○ 上記の二つの研究の違い → 求婚期間と両親の投資の違いの対応関係

[筆者の仮説]

関係の中で期待される投資 → 先行研究におけるジェンダーの違いの多様性の調停
者と成りうる

P216

Para1

この研究における、筆者らの考察

- 関係におけるパートナーの好みと期待される投資がどのように関連するのか
- 不定期的デートの段階：どちらも投資は少ない = 女性の選択性の増大
- 性的関係の段階：男性に対する投資の増加は見られない
- 排他的なデートの段階：投資は男性に対して増加、選択制は平行な増加
- 結婚の段階：男性も女性も投資は大きくなる

Para2

Sadalla の研究と Buss・Barnes の研究の差異

- 制限された状況を示す
- Sadalla の研究：優位性と関連のある特質のみを考察
- Buss・Barnes の研究：広い範囲の特質を分析
- ▽ 先行研究とダーウィンの理論を踏まえ
 - 優位性に関連する特徴が性別によって異なる位置づけがなされていることを予測

Method

Subject

被験者：73 人の学部学生

男性 29 人、女性 64 人

Procedure

四つの段階の設定

①一回のデート②性的関係③頻繁なデート④結婚

それぞれの段階において、24 の基準の重要性を示すように質問

13 の基準：優しさと理解力、信仰心、おもしろい個性、創造性や芸術性、家事、知性、所得、子供をもつことの願望、落ち着き、良好な遺伝子、学歴、外見、健康

11 の基準：積極性、感情的安定、親しみやすさ、人気、力強さ、セクシーさ、豊かさ、勇気、ユーモアのセンスの良さ、高い社会ステータス、優位性

- ・被験者はそれぞれの特質の最大と最小のパーセントが質問される

Result

- ・命題間の要素としてのジェンダーと命題内の要素としての関係のレベルを用いる
 - ・MANOVA 分析を用いることで、連続した計測分析を行う
- 一般的な両親の投資の仮説と一致して、この分析では女性がより選択的であることを示す

$F(1.86)=10.99$ $p<.001$

制限された両親の投資の仮説と矛盾しないものとして、ジェンダーと関係のレベルとの相互関係が示された

F(3.84)=5.57 p<.002

Table22.1 → ジェンダーの違いが性関係のレベルもっとも明確になることを示す

女性：安定した増加

男性：デートと性的関係の間に増加が見られない、しかしその後は増加

→ 関係のレベルが増大するにつれて、その基準の位置づけも増加している

P217

Para1

微粒子分析

- ・ 先行研究：男性と女性はそれぞれ異なる基準で選択する
 - 個人の多様性を考察することは興味深い結果を導き出す
 - ・ 一変量の分析：11の項目でジェンダーと関係のレベルとの相関性を示した
(知性、親しみやすさ、親切さ、情熱、健康、落ち着き、感情的安定、ユーモアのセンス、学歴、社会的ステータス)
- * すべての変数に共通すること：性的関係のレベルにおいてジェンダーの違いが強く現れた。

Para2

Fig.22.1 → 男性：デートにおいてより、性的な関係において知性に対する低い基準が
み

られる

知性の変数の分析：(関係のレベル) F(3.90)=44.2 p<.001

(ジェンダー) F<1

(相互作用) F(3.90)=7.3 p<.01

Para3

相互作用を示す他の変数 → 男性はデートの段階から性的関係のレベルまで増加することはない

Fig.22.2 → 親切さと理解に対する結果を示す

この変数に対する分析

(関係のレベル) F(3.90)=73.4 p<.001

(ジェンダー) F(1.92)=2.4

(相互作用) F(3.90)=9.6 p<.01

* 性的関係においてもっとも大きな性差が見られる

P218

Para1

13の変数に関して、女性はすべての関係のレベルにおいてより選択的

Fig.22.3 → 所得の容量についての結果

男性と女性：性的関係において最も異なる

*しかし、そのデータは性別の影響が存在している $F(1.90)=44.52$ $P<.001$

Para2

所得の容量に加えて、次の変数に関して女性はより選択的である

→ 力強さ、豊かさ、高い社会ステータス、支配、勇気、人気、こどもの願望、
良好な遺伝子、家事、信仰心、感情的安定

*男性に関しては、外見に関してほとんどのレベルでより選択的である
(結婚のレベルにおいては小さな値を示す)

Para3

因子分析

24 項目の変数の分析を行うために、すべての関係のレベルにわたる、それぞれの変数の平均値を用いた分析を行う

Table.22.2 → 因子構造を示す

Para4

変数の分析 : composite score (5つの因子それぞれのすべての変数の値を平均化したもの)

Table.22.3 → 構成要素である変数の平均をプロットしたもの
異なる因子が異なる結果のパターンに帰着した

P219

Para1

Table.22.3 → 相手に対する最小限の表準が示される
= 関係が増大するにつれて、両者の性差は増大

性差に対する二つの解釈

- ① ジェンダー差 : 性的関係のレベルで生じる
- ② ステータスに関する変数 : 関係のレベルとは無関係に性差が生じる

これらの二つの重要性 → 最後の分析で示される

= 性的関係を取り除き、ステータスの変数を除いた分析

○ ジェンダーの差は生じなかった。

Discussion

Para2

分析の結果 : 設定した両親の投資モデルを支持するもの

- ・ より大きなジェンダーの差 = 性的関係で大きくなる
- ・ 関係のレベルが増大するにつれて投資が増加する

(しかし、性的関係を考えると、どちらもリスクが大きくなり、相手により多くのものを要求する)

Para3

以上の結果は、他のほ乳類の研究からも支持できる

一夫一婦の種：長い求愛期間が設けられている

一夫多妻の種：求愛期間が短い

筆者の研究 → **Sadalla** の研究と **Buss・Barnes** の研究が繰り返されたもの
同時にそれらの研究を拡大し、より大きな相互関連的なコンテキスト
の中で解釈したもの

P221 Connecting Personality with Social Psychology

筆者らの方向性 → 異なる関係においての、相手を選ぶ基準の性差を考察

= 関係形成に対する社会心理学との関わりの中で導きだされたもの

社会心理学のモデル

→ ある関係における差異が、両親の投資モデルをヒトへ応用するときどのよ
うに位置づけられるかの理解を助けてくれる

* 社会心理学のアプローチについての限界

→ 異性愛の関係における再生産の重要性を無視していること

(かわりに社会心理学者は認識的な多様性に着目し、文化的規範についての未
検証仮説を用いて関係を分析する)

筆者 → そのような注目は、おおくの視点での解釈の際の困難さを指摘

(例) 文化的なモデルと反する求愛期間におけるジェンダーの違い

ヒトの **mating pattern** における文化横断的な普遍性

ヒトの求愛期間におけるホルモンの影響

P222

Para1

進化論的概念

→ 個性の評価に対する研究と社会心理学的研究を結びつけることができる

ダーウィンの仮説の中心：個体差と再生産との間の遺伝的つながり

他の理論家：個性の重要性に着目することで、我々の祖先は生存の機会を進歩させた

我々の祖先は優位性、調和、誠実さ、感情的安定、知性を受け入れることが必要不可欠

→ しかし、それは進化的成功の半分の部分

* 残りの半分：再生産

生物社会的な見地：ヒトは個性に対して過敏

→ それは相手の適応的な特徴を反映したもの

= 安易に相手を選ぶことは人生を無駄遣いすることになる

Where and When Are Women More Selective Than Men?

実際の mate choice : 相手が求める基準 (標準) や自らの魅力によって制限を受ける

これらの制限 → 自分に似た人を選ぶ

この論文の内容 : 進化論的概念が、人々は性的関係においてどのようなものを求めるのかについての大きな性差の予測へと導くこと

* 自らの調査 : 実際の mate choice ではないような最小限の基準 (標準) を調査

Can Self-reports Be Trusted?

最も大きな問題 : 人は常に言ったようには行動しないということ

* しかし、間接的な証拠としては利用可能

Clark・Hatfield の調査 : 異性に声をかけられたときの反応

質問 : ① “外出しない?” ② “家に来ない?” ③ “ベッドに行かない?”

反応 : 約 50% が ① を承諾

男性の約 75% が ③ を承諾、女性は 0 %

Do The Sexes Define “Sexual Relations” Differently?

筆者らの報告の他の問題点 : 性的関係の定義が曖昧 (一晩限りの関係もある)

* 一晩限りの関係 → 特に性差が誇張される

mate selection : 経済モデルと一致する (男性も女性も自身を高く評価し、相手により多くの要求を行う)

Do These Data Reflect The Norms Of American Society?

筆者らのデータ → アメリカ文化の性によって類型化された規範への適応を反映

* 性差について、筆者らは mating 戦略におけるジェンダーの違いを仮定

← 他の哺乳類の両親の投資の事例から、実質的・理論的・経験的証拠を得る

* 異なる社会においては、多様な変化を示す

Are There Exceptions To This Pattern?

一般法則 → しばしば例外を示すことによって証明される

女性が年上の男性を好む傾向 : 一夜限りの関係では最小化

(生存能力のある遺伝子的特徴を重視)

* この仮説については二つの条件が存在

① 一夜限りの関係はしばしば長い期間の関係に変化

② 魅力を保とうとする男性は若い男性より優れた遺伝子的特質を示す

The Punch Lines Of This Research

二つ要点の重要性

① 社会心理学者は、ヒトの求愛期間における再生産の役割を無視している

② 発達心理学者は、高い投資と低い投資との間の区別を一緒くたにしている。